

---

# チート転生とその最後

ゼロライダー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

チート転生とその最後

### 【ZPDF】

Z0175M

### 【作者名】 ゼロライダー

### 【あらすじ】

おつちよこちよこな神様のせいで死んでしまった。神様はお詫びに転生させると話しかける。しかしそれは罠だった。

一応アンチチート転生ものです。

(前書き)

Y・T氏の活動報告に寄せたコメントからできた小説です。

Y・T氏やT氏の同様の小説とは結末を変えました。

読んで頂けるとありがたいです。

またかなりのバットエンドの為、苦手な方はご注意下さい。

「あれ、 じいは？」

目が覚めると辺り一画面に自分がいた。  
俺の名前はなかやまきとし仲山聰史中学一年だ。何でこんなところに居るのかが全く思い出せない。

「ほつほつほ、 やつとおきたかのう？」

「あなたは一体？」

そこには白いひげをはやし丸メガネをかけたお爺さんがいた。例えるならハリー・ポッターに出てくる校長先生のようだった。

「わし？ わしは神様じゃ。但しかなりおっちょこちょいのな。」

「神様！ ？ ジャあここは天国？」

「そうじゃ、 と言いたいところなのだが、 じいは天国と地獄の間じや。 お前さんは本来死ぬべき人間ではなかつたのじゃ」

「はあ！ ？ 死ぬべき人間ではなかつたってどうしたことですか？」

「実はのう、 本来ならお前さんは85才まで寿命があつたのだかさ

つを間違つて死亡者リストに乗っけてしまつたの。わしあつひよ  
こちよいだからのう「

はあー? 何にい!...」このおつむけいここのせいで死んだと、  
寿命をかなり残して。許せん、まだやりたいことがかなりあったの  
に。

「まあ、そんなに怒りなさんな。お詫びにチート転生をせてあげる  
から。」

「チート転生・・・ですか?」

「左様、さまざまな能力を持つたまま他の世界に転生する」とじゅ

(転生か、悪くはないな。それなりに楽しいのなら。しかし同級生  
や家族の事が気になる。自分は楽しければそれでいいが、親たちを  
悲しませてまで転生はしたくないな。戻れるならそうしたいが。)

俺の心を見透かしたように神のやつが話しだす。

「ああ、家族や仲間のことは心配せずによい。もとからお前さんは  
存在しなかつたことにしておくから。わしは神様じゃからそのへら  
い当たり前じや。だから心おきなく転生しなさい。」

そつか、なら転生しようつか。

「わかりました。転生します。」

神様はその答えを待つていたかのよつこニヤリと笑いながら話しだす。

「やうが、決心してくれたか。ヒカルで転生に当たつて欲しい能力はあるかの？なんでもといってみなむこ。」

ならお言葉に甘えて。

「仮面ライダー全種類とウルトラマン全種類の変身能力、そしてハーレムがいいな。」

「わかった。それを授けよう。そして期間はお前さんの残りの寿命としよづ。さて、転生先はハーレムの作りやすいリリカルな世界がいいみたいじゃな。ちなみに転生すると今までの記憶と、ここでの記憶を消させてもらひうる。後ぐされなく行つてもらいたいからの。」

このじいさんなかなかわかつている。

「わかった。じゃあ転生してくれ。」

「それじゃ、ポチッとな。」

視界が白くなる、頭もぼんやりしてきた。そして俺の意識は闇に落ちた。

ふふ、また一人わしの”エサ”になろうとはな。  
早く食べたいものじゃ・・・

あつ、”デンライナー”的オーナーに”エサ”の存在抹殺費用を振り込まねば。

その後聰史はチート能力をフルに發揮し、なのは、フェイト、はやてを妻にとり（チート能力で一夫多妻制に法律を変えた。）幸せな人生を歩んだ。

それから1ヶ月後（聰史にすると20年）

「そろそろ熟成したかの。」

では食事の時間として、”エサ”を取つてくるか。

聰史は今田もなのは、フロイト、はやしと楽しむ暮らしが、突然視界が白くなり、意識が闇へと落ちていった。

「ルルは？」

「田が覚めたかの？」

モリヒサ田に髪のじじさとがつて前に見たことあるな。いつだっけ。

「思い出せないか、では記憶を復元させてやるや。」

じこわんは呪文みたいなのを唱え始めた。すると俺の頭の中にじいさんとのやりとりが入ってくる。

「神・・・わま。」

「ハリジヤ、神ジヤ・・・と言いたいところジヤが、本郷は死神じ  
や。」

「はー? 死神? なんで死神が神様を名乗つたんだ?」

死神のじいさんが不敵な笑いを顔に浮かべる。

「わしの大好物は幸せを味わったあとに絶望を与えた人間の魂が好きなのじゃ。お前さんは”エサ”だったのじゃ。」

（こいつ狂つてやがる。俺がエサだと、冗談じゃない。早くここから逃げ出さねば。）

「食事方法はルーレットじゃな」

と言い出し、ルーレットを持ち出す。そこには平成仮面ライダーの紋章が書かれている。

「これで当たった紋章の怪物にお前さんは食われる。そして魂はわしの體の中に入る仕組みじゃ。」

と指をパチンと鳴らすと、クウガからダブルまでの怪人が姿を見せる。

「それではルーレットスタートじゃ。」

とヒュルーレットを回し始める。

早く逃げなけばと思うが足が動かない。これもあいつの仕業か。  
俺はここで食われるのか。

絶望感が襲う。しかじじいさんはそれを待っていたかのようにニヤ  
ーと口を開いている。

するとルーレットがキバの紋章に止まる。すると俺の目の前にバッ  
トファンガイアが現れライフエナジーを吸い始める。

「お主ラッキーだったの、痛みもなく死んでいいが。」

「なぜだ・・・」

と口元したところで意識は途絶えた。

そしてライフエナジーを吸われた体は劣化ガラス体となつた。

「なぜって、お前さんは”エサ”に選ばれたからじゃ。わたしの。」

死神の指が触れるガラス体は粉々にくだけた。

「ううそつをまと。さて次の”エサ”を探すかの。」

と、死神はその場を去つて行き新たな獲物を探し始める。自分の空腹を満たす為に・・・

終わり

(後書き)

自分の文章力のなさに呆れました。他の人がかいたらもっと盛り上がるのに・・・

色々意見があると思います。

感想を書いて頂けるとありがたいです。

活動報告に裏設定を乗せておきますのよろしくお願ひいたします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0175m/>

---

チート転生とその最後

2010年10月9日05時20分発行